

資料 2 専門技能修得の年時毎の到達目標

Ⅲ. 診断基本手技 一般目標:運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する.	1. 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOL に配慮できる 2. 主な身体計測 (ROM, 四肢長, 四肢周囲径など) ができる 3. 骨・関節の身体所見がとれ, 評価できる 4. 脊椎・脊髄の身体所見がとれ, 評価できる 5. 神経学的所見がとれ, 評価できる (1) 徒手筋力テスト (MMT) (2) 感覚障害の検査 (3) 反射 6. 適切な X 線写真の撮影部位と方向を指示し, 読影できる. 7. CT の適応を理解し, 適切に指示し, 読影できる. 8. MRI の適応を理解し, 造影の要否も含め適切に指示し, 判定できる. 9. シンチグラフィーの適応を理解し, 適切な核種を選択して指示し, 判定できる. 10. 電気生理学的検査 (筋電図, 神経伝導速度など) の適応を理解し, 実施・判定できる. 11. 骨量測定の概要を理解し, 指示・判定できる. 12. 超音波エコー検査の適応を理解し, 実施・判定できる 13. 侵襲的検査を行う場合, 患者・家族に説明し, 同意を得ることができる 14. 侵襲的検査施行後の合併症を熟知し, 予防的管理を適切に実施できる 15. 血液・尿生化学検査の適応を理解し, 指示・判定できる 16. 関節造影, 脊髄造影の適応を理解し安全に実施できる. 17. 関節液検査, 脳脊髄液検査の適応を理解し, 実施・判定できる 18. 組織生検の適応と手技を理解し, 指導責任者のもとで実施できる. 19. 微生物学の基礎を理解し, 細菌検査を指示・判定できる 20. 病理標本を鏡検し, 正常像と病的組織像の鑑別ができる 21. 関節鏡検査の適応を理解し, 指導責任者のもとで安全に実施できる 22. 日整会各種機能評価判定基準を用いて評価できる.				
Ⅳ. 治療基本手技 一般目標:運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する.	1. 薬物療法の基本と適応を理解し, 適切に処方できる. 2. 医薬品副作用被害救済制度を知っている				

資料 2 専門技能修得の年時毎の到達目標

3. 麻薬管理に関する法律を理解し、適切に処方できる			
4. 一般外傷を診断し、検査と治療の優先度を評価できる。			
5. 骨折や脱臼の徒手整復を正しく実施できる。			
6. ブラッシング、デブリドマンなど基本的創傷処置を正しく実施できる。			
7. 局所麻酔法を正しく実施できる。			
8. 伝達麻酔を正しく実施できる。			
9. 腰椎麻酔を正しく実施できる。			
10. 硬膜外麻酔を正しく実施できる。			
11. 全身麻酔の基礎を理解できる			
12. 固定法(副子、ギブスなど)の基本と適応を理解し、適切に実施できる。			
13. 牽引療法の基本と適応を理解し、適切に実施できる。			
14. 理学療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。			
15. 運動療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。			
16. 作業療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。			
17. 装具療法の基本と適応を理解し、装具や杖を適切に処方できる			
18. 清潔操作(関節穿刺・注入や直達牽引など)が実施できる。			
19. 神経ブロックを安全に実施できる。			
20. 硬膜外ブロックを安全に実施できる。			
21. 局所解剖に基づいて手術の概要を述べることができる。			
22. 手術について、患者・家族に説明し、同意を得ることができる			
23. 術前の準備(患者と患肢の確認、体位、手洗いなど)を適切に実施できる			
24. 運動器の基本的な手術手技(鏡視下手術を含む)に習熟し、実施できる			
25. 骨移植の種類を理解し、その適応を判断できる			
26. バイオマテリアルの種類を理解し、その使用基準を判断できる			
27. 患者・家族に手術の内容と術後合併症の可能性などを説明できる			
28. 術後合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる			
29. 手術記録を適切に作成できる			
30. 術後のリハビリテーションを適切に処方できる			
31. 在宅医療・社会復帰などにつき、メディカルスタッフなどと			

資料 2 専門技能修得の年時毎の到達目標

	協議できる			
--	-------	--	--	--